



ミモザカフェ 報告書

独立行政法人福祉医療機構
令和3年度社会福祉振興助成事業

ミモザカフェ 報告書

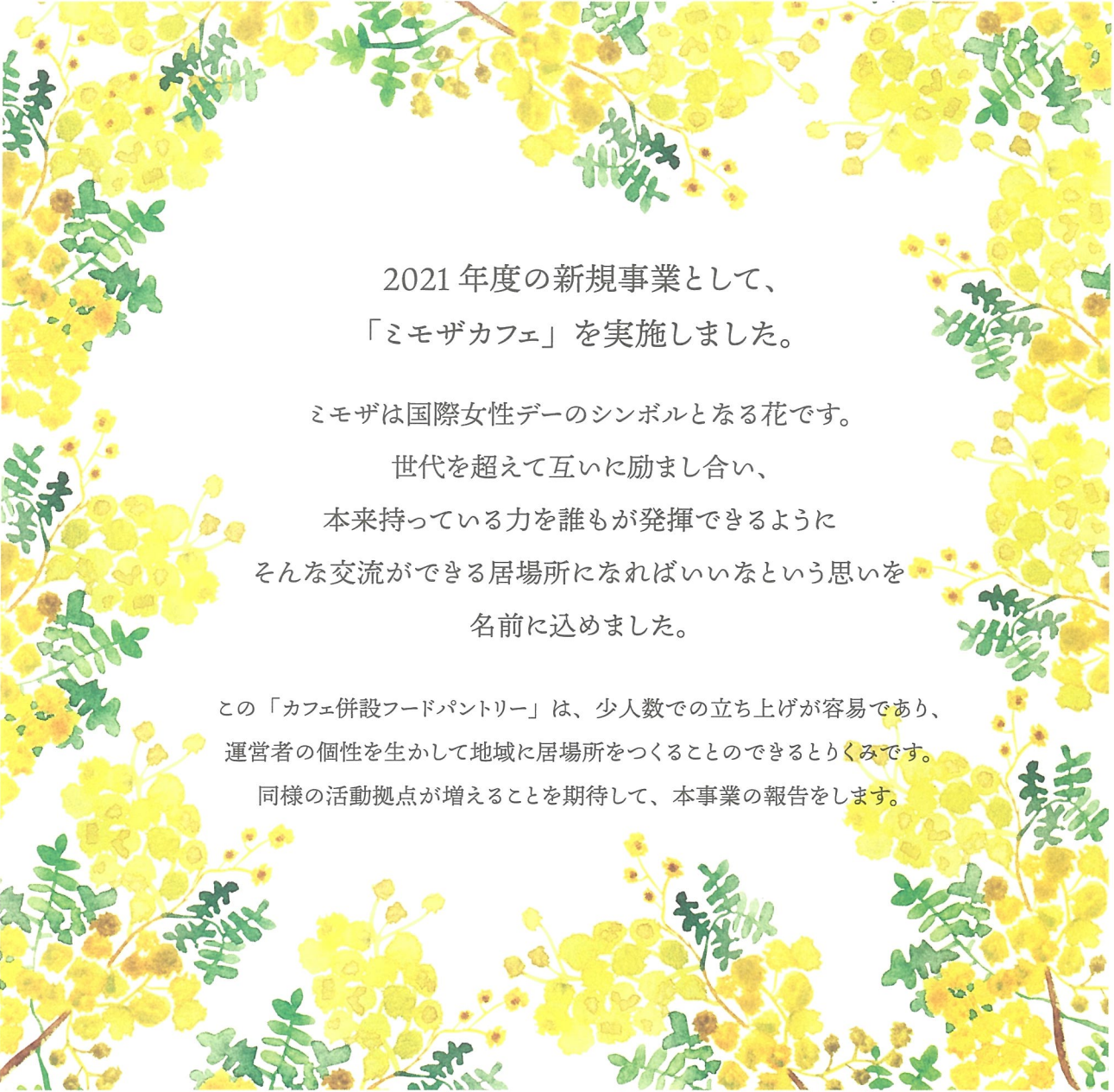
2021.4.1～2022.3.31

特定非営利活動法人子どもの生活支援ネットワークこ・はうす

〒640-8463 和歌山市楠見中 65-21

MAIL : cohoused073@gmail.com

TEL : 070-7790-5747



2021年度の新規事業として、
「ミモザカフェ」を実施しました。

ミモザは国際女性デーのシンボルとなる花です。
世代を超えて互いに励まし合い、
本来持っている力を誰もが発揮できるように
そんな交流ができる居場所になればいいなという思いを
名前に込めました。

この「カフェ併設フードパントリー」は、少人数での立ち上げが容易であり、
運営者の個性を生かして地域に居場所をつくることのできるとりくみです。
同様の活動拠点が増えることを期待して、本事業の報告をします。

■ 目的

貧困や病気、ひとり親家庭、ヤングケアラーなど
多様なニーズを持つ親・子・若者の孤立を防ぎ、
将来にわたって地域で共に生きていけるための関
係性を構築する。必要に応じて支援制度につな
ぎ、困難の深刻化を予防する。

■ 内容

- ・ フードパントリー（食材支援）及びリサイクルコーナー（衣服
や学校教材などの無料譲渡）を実施する。
- ・ コーヒーや軽食を楽しみながらおしゃべりができ、ストレス解消
や悩みごと相談のできる居場所を作る。
- ・ 社会福祉士であるスタッフが常駐し、支援制度の情報提供や、
必要に応じて同行支援も行う。
- ・ 自宅にネット環境がない方のためにWi-Fi とパソコン、プリン
ターを整備し、オンライン教材や調べものなどに活用してもら
う。



■ 実施日時 毎週土曜日（祝前日等除く）13:00～17:00

■ 実績

- ・年間32回実施（フードパントリーのみ10回含む）
- ・のべ参加人数 大人178名・子ども（中高生含む）151名、各回平均10名

カフェのメニュー

おにぎり・みそ汁・カレーライス・スープパスタ・ラタトゥイユ・ポトフ・お雑煮・ホットサンド・
サンドイッチ・フレンチトースト・大学芋・シフォンケーキ・米粉のケーキ・パウンドケーキ



当初はおにぎりとお味噌汁、おてらおやつクラブからいただいたおやつ
の提供のみを想定していたが、実際にはボランティアの手作りによる軽
食やお菓子が毎回のように登場し、参加者からも大好評であった。



誘いをすることも多かった。
慮する人のために前日や当日に個別でお
送信するだけでなく、忘れている人や遠
約60件の送信先に毎月のカレンダーを二斉
開催の周知は主にラインを活用した。
下さることもあった。

開始時刻までにフードパントリーの食材
を並べ、どのように配布するかをスタッフ
間で確認する。その際、家族構成や家庭
の状況への配慮を重視し、同じものの一律
の配布ではなく、選んでもらう形をとった。
カフェコーナーについては、前日までにメ
ニューを決定しておき、調理した。ボラン
ティアが家庭で焼いたお菓子を持ってきて

準備・広報

当日の流れ

来所されたらまず手洗いに誘導してから、フードパントリーで食材を選んでもらう。「時間があつたらどうぞー」とお茶のお誘いをする。あとはおしゃべりしたり子どもから大学生までが一緒になってボードゲームで遊んだり、なるべくくつろいで過ごしてもらえよう配慮した。

おしゃべりについて

話題は多岐にわたった。子どもの不登校／離婚に関する不安やしんどさ／資格取得や転職についての悩み／体調に関すること／医療関係で働く子どもへの心配／料理レシピや食材の感想／旅行や休日の過ごし方／ワクチン接種経験談／断水体験…

スタッフにも参加者にも子育ての悩みや離婚経験を抱えている方が多く、どんな話題でも共感的に会話が弾むことが多かった。



ただ、反省点もある。子どもが隣に座っているにも関わらず子育ての悩みや離婚の経緯などの会話が始まった場合、時には話題を変えたり別室へ誘導する必要がある。そうした配慮ができた時もあるれば、場の空気や慌ただしさに流されてそのままになってしまった時もあった。スタッフ間の注意点として今後共有しておきたい。

それから、スタッフ自身の経験談を話しすぎているかという点も振り返りたい。子どもの不登校や発達の課題、ひとり親での子育てなど、同じような経験をしていることも多く、共感があればこそその助言や経験談だが、時代や環境は一人ひとり大きく違う。「よくあること」「私も大丈夫だったからあなたも大丈夫」ではなく、目の前にいる方の今のしんどさをきちんと受けとめ、若いみなさんが話しやすいように、「温かい聞き役」として一緒に過ごすことがけたい。

課題・問題点

まず、駐車スペースがないことが挙げられる。近隣への迷惑となるため車は2〜3台しか置けず、車で来所された多くの方が一斉にこはうすの家で過ごすことは難しい。室内スペースも限られており、密を避けるという意味でも参加者が順次入れ替わっていたくのが理想だが、「いつ来てもいい帰ってもいい」スタイルでは、それも難しい。そもそも、少しでもゆつくりしていつてほしくて実施している事業でもあり、現時点では解決の方法が見つからない課題である。

それから、小学生が子どもだけで遊びに来たり突然友達を連れてきて自由に出入りすることが何度もあった。遊びに来る、友達を連れてくるというのは居場所が定着してきた証拠として嬉しいことではあるが、相応のスタッフ態勢をとれていない中で目が行き届かず不安もあった。保護者向けにミモザカフェの趣旨を再度周知、子どもだけを





預かる活動ではないことを説明した。趣旨を理解してもらい、習慣やルールを皆で作っていくにはある程度時間がかかることを踏まえる必要がある。

成果

回を重ねるうちに参加者同士の顔なじみも増え、親ではない別の参加者が子どもの遊び相手になるなど、公共のリビングのような空間ができた。父親や祖母の参加もあり、また学生から70代まで幅広い年代のボランティアによって多様性のある居場所となった。

想定した以上に朝食や昼食をとらずにやってくる子どもが珍しくなかった。当初は場を和ませる程度に考えていた軽食提供であったが、空腹を満たし栄養を補うという点でも有意義であった。時に「甘え」も許される関係性が何かの力になればと願う。

ネット環境やプリンターが整備されたことでは、奨学金や支援制度について相談しながら調べたことをその場で紙

に出せるようになった。子どもたちも好きな動画を見たり新たなゲームのルールを調べるときなどに活用した。

断水という非常事態に直面した際は、寄付食材を受け取り提供するための拠点として、重要な役割を果たした。顔なじみのメンバーと雑談を交わすことで気分転換や不安の解消ができる、精神的なサポートの拠点にもなった。



VOICE

ミモザカフェに
参加して

ただ遊んで愚痴って、 エネルギーが貯まるのを待つ時間が必要だった

——— 後藤 豊満楼さん 子ども一人（小学生）

実家の母が2020年の秋にケガで入院したんですけどコロナで面会できなくて……、母も氣力を失ったんでしょうね。ガタガタと悪化しました。その前の年のお正月は一緒にしゃぶしゃぶを食べてたのに、この急変は何？って。そのまま春に亡くなりました。

それで、気持ちを言える相手がいなくなったのと、コロナの影響から部署の異動があつたことダブルパンチで、あの朝起きられなくなつたんです。仕事中心ポロポロ泣き出したりして、行政の相談窓口に「どうしていいかわからない」って電話したら、「あなたの今の状態は、心療内科を受診した方が良くい」って言われました。受診したら適応障害って言われて。おりしも深キョンと一緒にした（笑）

カウセンシングにもかかつてたんですけど、弱り過ぎていて立ち上がる力がなかったんで、もう仕事を休むことが最優先だなあとと思うようになりました。

よくミモザカフェに来てたのはその頃です。私、仕事を休んでるのにここに

は来てた気がする。買い物も出たくないし風呂も入りたくない、ごはんも作りたくない、なんにもしたくない、誰にも会いたくない、くらしい時だったんですけれど、ミモザには来てスタッフさんにグチグチグチグチ言っていましたね。

——みんなで人生ゲームとかして、他愛ない時間が過ぎてたよね。

あー、でもああいう時間が必要だった。何一つ状況は変わってないし解決してないけど、ああやって過ごしながら自分の中にエネルギーが貯まつてきたり、なんとかできるかなという気になってきました。おかげさまで。

あと、お米とかいたただけるじゃないですか。こはうすに出会うまでは、いつも「あ、お米ない、どうしよう」って思ってたんですけど、そういう不安が軽くなるのも大きいです。「今週はお米買うからヨーグルトは我慢しよう」みたいなやり練りの頻度が減りました。本当に感謝しています。

断水

和歌山北部

ドキュメント

10月3日(日)

- 16時10分 水管橋崩落が確認される。
和歌山市北部地域ほぼ全域(約6万世帯・13万8千人)で断水が始まる。
- 19時30分 和歌山市企業局による記者会見
防災無線による断水のお知らせが始まったが聞き取りにくい。飲料水は市内ではすぐに売り切れていた。

- 21時05分 和歌山市「和歌山市企業局からのお知らせ」六十谷水管橋の破損により、紀の川北部地域が断水となります。「迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。」
- 21時20分 こはうすライン
「和歌山市北部にお住まいの皆さん、思いもよらない断水で慌てたことと思います。今後、給水車も出ると思いますが、詳しいことはまだ分からない状況です。明日以降、こはうすでもできる限りの対応を考えたいと思いますので、お

困りの状況があればお知らせください」
該当地域在住のママパパたち40人弱とボランティアア学生約20人に「斉送信。」

10月4日(月)

- 5時30分 和歌山市「六十谷水管橋の破損に伴う応急給水のお知らせ」給水所22カ所(これ以降、約30カ所まで順次増設)
- 7時30分 こはうすフェイスブックページにて物資や寄付金のお願いを掲載する。いつになくシェア26件2千近いリーチとなった。
- 9時 紀南で「富田の水」を大量購入(たまたまスタッフが前日に白浜泊だったため可能だった)。
- 9時20分 「紀南から飲料水を寄付して下さる方がある」と情報があり、要望したところ、お昼にはこはうすの家まで2ℓ×82本を届けて下さった。

- 9時30分 こはうすライン
「こはうす(*)で、水を汲むことが可能です。お風呂と洗濯機も貸してもらえます」
- 12時15分 こはうすライン
「飲料水のおすそ分けできます。配達も可能です」「善称寺さんで井戸を開放して下さいます」

*こはうす…和歌浦口付近にある当会2カ所目の活動拠点。今回の断水地域から外れていた。

「こはうすで洗濯機とお風呂を使えます」不特定多数への対応が不可能なため、SNSでの拡散は控え、関係者およびクチコミでの拡散を呼びかける。

- 12~17時 こはうすの家にて支援物資配布。
- 14時 和歌山市「マンホールトイレを設置しています」紀の川北岸の下記7カ所(これ以降、順次トイレも増設)
- 17時10分 和歌山市「断水時に利用できる災害時協力井戸一覧」協力井戸23基のお知らせ
- 18時 車がない家庭や赤ちゃんのいる2世帯に水を届けに行く。ふだんなら往復40分ほどの距離で2時間かかった。
- 20時50分 和歌山市「六十谷水管橋の仮設配管工事の目途について」応急復旧作業を10月6日(水)より開始、10月8日(金)中の送水開始を目指します。

こはうすの家では、午後から夕方にかけて、飲料水を受け取りに来た数人のママたちと給水所の状況や「ポリタンクが買えない!」など立ち話での情報交換を行った。こうした雑談によって、スタッフも含めて皆の不安と緊張を少しは和らげることができた。

「平野台の湯、幸の湯、川辺の湯に行ったのですが、大渋滞で入れず、結局ビジネスホテルのシャワーを借りました。クタクタになりました。」(シングルマザーさん)

「こんなに1週間を長く感じたことはない」(中学生)

給水所にはどこも長い行列ができており、給水袋もほとんど無かったため、近隣に頼れる親戚や友人がいない場合は飲料水・生活用水ともに確保困難な状況があった。該当地域の小中学校は4日から6日まで休校や午前のみ登校など、変則的な登校となった。

10月5日(火)

●16～20時 いつもどおり、夜の居場所活動。こはうすの家のトイレは簡易水洗なので実施可能と判断。お弁当を買ってきていつも通り集まった。家族で協力して給水に奮闘している様子や「お風呂に入りたい」という子どもたちの声に皆で共感する。学生ボランティアからは、「給水ボランティアに登録しようと思ったけど、あつという間にいっぱいメンバーになれなかった」という話を聞く。学生たちの心意気が頼もしい。

店頭で飲料水やポリタンクが並び始めたが、まだ個数には限りがあり、出遅れると買えない状況であった。そんな中、こはうすのスタッフがスーパーに並びに行ってポリタンクを6ヶ確保してくれた。県内外の方からもレトルトこはんや紙皿紙コップなど、様々な支援物資が届き始

めた。

給水車が大幅に増えたことで給水所での行列はほぼ解消し、給水袋も譲り合いつつ受け取れるようになってきた。断水地域外の飲食店やお寺、子ども食堂つながりの皆さんからの「水道を開放します」「井戸水あります」「洗濯・お風呂使ってください」という連絡や発信が次々と届いた。これらを元に、電車とバスで行ける子ども食堂さんの情報を車がないご家庭に案内した。「何かできることがあれば」と仕事帰りに駆けつけて下さったこはうす会員さんには、ポリタンクを借りるとともに水の配達も協力していただいた。

宅配業者による配送は遅れ気味で、ネット注文した飲料水やポリタンクはなかなか届かなかった。他地域から応援に来たと思われる宅配業者の二人組が夜遅くまで街のあちこちを走り回っていた。

10月6日(水)

●10時 【断水解消のための仮復旧工事に着手しました】六十谷橋が通行止めとなる。

スポーツクラブや温泉施設での【お風呂とシャワー無償提供】情報が拡散されるようになった。

●13～18時 こはうすの家にて支援物資配布。赤ちゃんがいるご家族を沐浴と入浴、洗濯のために市内南部の助産院まで送迎する。ベビーカーレンタルや助産院への依頼も行った。

●19時 和歌山市【給水開始時の注意点】（これ以降、繰り返し案内がある）

10月7日(木)

●16～20時 いつもどおり、夜の居場所活動。インターネットの情報が入らない調理ボランティアさんから、広報車や防災無線が聞き取れず苦戦している様子を聞く。水道局職員の家族が自身の狭い思いをしているらしいという話には「個人や家族を責めるのは間違ってる。気の毒すぎる」と話が尽きない。

居場所活動と並行して、こはうすの家にて支援物資配布。

●16時20分 和歌山市【シャワー室を無料でご利用いただけます】公共施設(5か所)のシャワー無料開放します。

10月8日(金)

●13時 和歌山市【妊婦さん世帯への水の配布】妊婦さんがいる世帯で、ご本人や同居家族の方

等が給水所へ行くのが困難な場合、「自宅まで生活用水をお届けします。

●22時50分 和歌山市「給水開始予定時間の変更について」送水開始時間の遅れにより、10月9日(土)午前6時としていました給水開始が遅れる見込みとなりました。誠に申し訳ありません。

店頭で水の購入はできるようになっていたが、それらも余計な出費となるため、必要な方には飲料水や支援助物資を積極的に配布した。

10月9日(土)

●1時30分 和歌山市「給水開始予定時間」10月8日(金)午後10時38分に送水を開始しました。給水開始は10月9日(土)午前8時30分の見込みとなります。

●8時30分 給水開始 和歌山市より、節水への協力要請、水を出す順番と市のアナウンスがあるまでは飲用にしないようにとの注意喚起が繰り返される。

情報混乱と広報不足は給水開始後も続き、飲用可能かどうかをめぐって情報が錯綜した。

●13~17時 ミモザカフェ

10月10日(日)

●18時15分 「鳴滝川以西地域への飲料水としての使用が可能になりました」水質検査を行い安全性を確認しましたので、飲用として使用してください。

●20時 「紀の川以北地域全域への飲料水としての使用が可能となりました」本日18時15分をもって、鳴滝川以西地域への飲料水としての使用が可能になりましたが、その他の地域についても本日20時をもって飲料水としての使用が可能になりました。

低所得世帯への支援を

今回、断水が市内北部のみだったため、近隣の知人友人、支援団体から助けてもらいやすかったことは不幸中の幸いであった。ただ、紀ノ川を越えればいつも通りの日常生活、職場があり、断水生活の大変さを理解してもらえないしんどさを語る声が多く聞かれた。不安や過労によるメンタル悪化の訴えや、重い水を繰り返し運んだことから断水解除後に膝や腰に痛みが出た方、整形外科を受診した方もあった。

その後、和歌山市の「断水による給水機器等

の修繕等の補償」や「飲食店や理美容など事業所への損失利益等に対する助成」が始まったが、その他市民生活に関しては「水道料金の1か月分免除」のみとなっている。しかし、断水によって生じた消耗品購入代、銭湯代、ガソリン代、交通費、コインランドリー代といった出費は断水によって突然生じた大きな負担である。また臨時休校によって仕事を休み収入減となった方もある。もともと余裕のない中でやりくりしてきた家庭にとって、これらの負担増は簡単に解消できるものではない。ひとり親世帯や低所得世帯、生活保護世帯への支援が必要ではないだろうか。

日頃の活動の成果

断水期間中、会としては主に①和歌山市からの発信や各種支援情報の周知、②寄せられた支援助物資の配布、配達、③お風呂や洗濯を借りられるところの案内とつなぎ役、送迎、④いつもの通りの居場所活動、を各家庭の必要に応じて行った。そして、⑤それらすべての活動を通して「二人じゃないよ」「みんなまで乗り切ろう」と伝えることに努めた。

「昨日、家の玄関にお水をかけて下さってありがとうございました」と言われたが、それはこはうすではないよ(笑)という美しい誤解もあった。見えないところでもたくさんの方の気遣いや親切が発揮された1週間だった。



あとから振り返って、これまでの活動の成果だと思ったことがいくつかある。①家族構成や地元出身かどうか、体調はどうか、交通手段は何か、などがある程度把握していたため、必要な支援の見通しを立てやすかった、②ほとんどの家庭とラインでつながっており、一斉のお知らせや個別連絡が効率よくできた、③おてらおやつクラブ（善称寺さん）や市内のこども食堂さんから支援を受けられた、④会があることで寄付や支援の受け皿となれた、等である。

断水は、ある種の災害であり非常事態であった。当会のような地域密着型NPOの活動はこういう時のためにあるのかもしれない。日頃からつながりを作っていることで、せめて孤立だけでも防ぎたい、当初より掲げてきた会の役割の一つを思い起こす機会となった。

二度とこのような事態が起こらないことを願うが、防ぎようのない自然災害に備える必要がある。貴重な経験を今後に生かしたい。

2021年度活動報告

■ 居場所づくり

- こはうすの家 毎週木曜日と月2回火曜日 登録：小学生14名、中学生7名
こはうす 金曜日と土曜日各1回、計月2回 登録：小学生5名、幼児2名
こむすび塾 月2回火曜日 登録：小学生17名、中学生5名
ミモザカフェ 毎週土曜日午後 年間32回実施 平均10名参加
たまりば 定時制高校内の居場所づくりにスタッフを派遣。年間41回実施。

コロナの感染拡大による活動休止期間もありましたが、可能な限り顔を見て交流する機会をつくるよう工夫しました。人形劇「チト」鑑賞(7/27)や親子バス遠足(3/27)など、特別な行事にも取り組みました。

■ 食材支援

利用登録約70世帯(アウトリーチ13世帯含む)。第6波となった2022年1～2月には、自宅療養中のひとり親家庭2軒に緊急に食材を届けました。



みんなで作ったキンパ



「野菜のたいたん」がおなじみ

■ 情報発信・ネットワークづくり

シングルマザー交流会 6/13(参加14名)、8/29(参加11名) 健康運動と交流会。
ニュース年3回発行、フェイスブック・ツイッターを随時更新。

活動報告会 1/30 ミモザカフェ報告・学生ボランティアの卒論発表(参加7名)。

公開質問状 10/31 投開票の衆議院選挙の際、和歌山1区候補者と各政党に質問を送付し、寄せられた回答をSNSで発信しました。

■ 組織

正会員21名/賛助会員64名・1団体/ボランティア登録 学生34名・大人21名



こはうす



こはうす



こむすび塾

編集後記

2021年10月、あるツイートが話題になりました。

【(略)日本の貧困者は薬物もやらず、犯罪者の家族でもなく移民でもない。教育水準が低いわけでもなく、怠惰でもなく勤勉で労働時間も長く、スキルが低いわけでもない。世界的にも例の無い、完全な「政策のミス」による貧困だ】と。

これは、ミモザカフェにやってくるママやパパたちに接している実感とまったく一致します。コロナの影響で勤

務時間や収入が安定しないことも、断水も、病気も、当事者にはどうしようもなく、個人の努力で解決できる域をとっくに超えています。

一人ひとりの子どもや子育て中の親がもっと大切にされる社会をつくるために、この禍々しい2年間であぶり出された課題を直視していきたい、困難な時こそ力を合わせて乗り越えたいです。共感と連帯を耕し、一歩でも進化した社会に着地できるように、私たちはこれからも元気に「おしゃべり」し続けます。

(事務局・馬場)

About us

こ・はうすの「こ」には、英語で「共に」を意味する「co」と子どもの「子」の二つの意味が込められています。こ・はうすは、「子どもと共に過ごす家」です。小学生から70代まで、みんなで集まってごはんを食べたり、宿題や勉強をしたり、遊んだりおしゃべりしたり、安心して過ごせる居場所づくりをしています。困ったとき、しんどいときも「おたがいさま」で支えあい、温かい人間関係の中で豊かな生活体験を積みながら、元気な若者に育ってくれることを願っています。



目的 (定款より)

この法人は、子どもの権利条約の精神を基盤として、生活に困難を抱える家庭の子どもたちを対象とする学習・生活支援活動、居場所づくりを行い、子どもの発達・成長を支援する。また、当事者間および支援者のネットワーク構築により、子どもの社会参画や進路選択の拡充を図るとともに、貧困問題の解決に寄与することを目的とする。

米・野菜やお菓子などのさしいれについて

常温保存可能なものをお願いします。必ず事前にご連絡ください。
米（できれば新米をぜひ!）・調味料・パスタやうどん・素麺など
日持ちのする食材・缶詰・レトルト食品・おやつなど、ありがたいです。

賛助会員募集中

賛助会員

年会費 一口 1,000 円 3 口以上

趣旨に賛同し、応援して下さる個人または団体。
総会の議決権はありません。

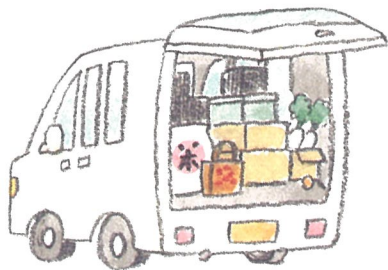
正会員

年会費 1,000 円

趣旨に賛同する個人。総会の議決権があります。

ご寄付

いつでもいくらからでもありがたいです。



居場所の利用対象

- ・夜に子どもだけで留守番をしている。
 - ・ひとり親家庭である。
 - ・おうちの方に病気や障害がある。
 - ・外国にルーツがある。
 - ・ヤングケアラーである（家族のお世話をしている）。
- などの理由で居場所を必要とする小学生以上の子どもたち。

ゆうちょ銀行間の送金

記号 14760 番号 10241571

口座名 コドモノセイカツシエンネットワーク コ ハウス

他金融機関からの送金

店名 四七八 (ヨシナナハチ)

預金種目 普通預金

口座番号 1024157

口座名 コドモノセイカツシエンネットワーク コ ハウス

郵便振替口座

口座記号 00950-3

口座番号 173583

加入者名 子どもの生活支援ネットワーク こ・はうす